

## 第6部 2020年度の環境に関する取組みについて 豊岡市環境審議会の意見 (今後の取組みに向けて)

### ■環境審議会の意見

本報告書第2部から第5部までの内容に対し、第2次環境基本計画の「目標とする姿」の体系に合わせ、環境審議会からの意見や要望をまとめています。

取組みを期待する主体を「市」「市民」「事業者」で分け、記号を付けています。また、市については、さらに主な関係課を載せています。

記号： **市** **市民** **事業者**

## (1) 「目標とする姿」ごとの取組みについて

### 目標像①手入れの行き届いた豊かな森が、きれいな空気や水を育んでいます

森林が持つ多面的な機能について、市民の理解が進むように、森林が提供する生態系サービス(※)の価値や具体例を引き続き周知していく必要があります。

(※)生態系サービス：生きものや自然の恵み

市

事業者

広葉樹は家具材としても価値があります。間伐等で切った木をバイオマスストーブ等の燃料資源としての活用に限るのみでなく、家具などの木工用品としての利用価値を生み出すよう資源管理することで、森林の生物多様性を保全してください。

市

市民

事業者

森林環境の保全につながるビジネスが持続するよう、伐採～集積の各段階での個々の樹種の仕分けによる森林マネジメントサイクルの構築や付加価値化、人材育成や制度設計のサポート体制強化が求められます。

市

事業者

【主な関係課】

農林水産課  
コウノトリ共生課

農林水産課

農林水産課  
環境経済課

### 目標像②里山が様々に利用され、関わる人が増えています

有害鳥獣駆除数が高水準を維持しており、農林業への被害面積や被害額も減少していることから、対策がうまく行われていることがわかります。今後も同水準の捕獲圧を維持するとともに、市民による無意識の餌付け（規格外野菜の投棄や二番穂の放置、柿などの果樹の放置）をやめることの啓発や、どのエリアでシカの生息数や被害が多発しているかを具体的に周知するなど、さらなる対策を期待します。

市

市民

事業者

山にはツキノワグマやマダニなど人の命を脅かす危険な生きものもいます。行政は対策等の情報発信を適切に行い、市民は安易に山に入ったり、むやみに恐れて敬遠したりするのではなく、山の危険性や対処法を身につけたうえで、里山に親しむ活動をすることが求められます。

市

市民

【主な関係課】

農林水産課

農林水産課  
コウノトリ共生課

### 目標像③使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています

お米や野菜の生産については、減農薬ではなく無農薬の栽培をさらに増やす取り組みが重要になります。そのために、「コウノトリ育む農法（無農薬）」申請に係る提出書類の簡略化や中小規模農家への補助制度の充実など、さらなる取り組みを期待します。

市

事業者

「コウノトリ育む農法」においては、生きものの退避場所となる「マルチトープ」を設置するなど、生きものとの共生という理念を意識したさらなる取り組みが求められます。

市

市民

事業者

【主な関係課】

農林水産課

農林水産課  
コウノトリ共生課

地産地消は地元農家の持続性につながるだけでなく、輸送時のCO<sub>2</sub>排出抑制による温暖化防止対策にもなります。地産地消を促進するため、市民や事業者の理解が進むよう、普及啓発に力を入れてください。また、市民や事業者など消費者のニーズから農地の利用を考えると「地消地産」を進める仕組みづくりも大切な視点です。

農林水産課  
生活環境課

市 市民 事業者

## 目標像④あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます

【主な関係課】

海岸や河川の清掃活動が継続的に行われていますが、単なる「美化」や「クリーンアップ」で終わるのではなく、市民は「まずはごみを出さない」暮らし方をするという意識を持つことが大切です。

生活環境課

市 市民 事業者

観光地周辺にごみが多い傾向があります。市外から来られる方に対しても、ごみのポイ捨て禁止や分別マナーについて啓発を行うことが求められます。

生活環境課  
大交流課

市 市民 事業者

河原に外来植物のシナダレスズメガヤが繁茂することにより、砂が堆積し、子どもたちの遊べる丸石河原がなくなりつつあります。

コウノトリ共生課  
建設課

外来種対策や適度な浚渫など、遊びやすく親しみやすい河原環境が求められます。

市 市民

## 目標像⑤コウノトリも住める豊かな生態系が、バランス良く保たれています

【主な関係課】

各小学校区に絶滅危惧種が生息しています。それらの種を地元の小学生や各団体が一緒になって保全し、生息環境を再生していくことを期待します。

コウノトリ共生課  
こども教育課  
コミュニティ政策課

市 市民 事業者

野外に生息するコウノトリの増加に伴い、餌生物が増殖する環境を人の手で創出する必要があります。また、けがをする個体が増えていることを伝え、市民や事業者に防獣ネットの適切な管理やワイヤーメッシュへの置換等の対策を進めるよう周知してください。

コウノトリ共生課  
農林水産課

市 市民 事業者

## 目標像⑥様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています

【主な関係課】

昔からの伝統や文化を研究し、先人の努力や知恵を再認識する場や機会の創出が求められます。また、他地域から豊岡市に移住して来られた方々とも交流し、昔からの伝統を守りつつ、新しい伝統が作られていくことを期待します。

コミュニティ政策課  
生涯学習課  
文化振興課  
環境経済課

市 市民 事業者

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの行事や祭りが中止となり、行事の再開が危ぶまれるものもあります。そうした行事や祭りの再開には十分な支援が求められます。

コミュニティ政策課  
文化振興課

市 市民 事業者

## 目標像⑦子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています

ふるさと学習により、子どもたちが自然について学ぶ機会がありますが、副読本は「コウノトリ」に特化した記載となっています。子どもたちが里山の植物や動物など、様々な分野の「自然」について知る機会が必要です。

市

地域の生態系サービスから得られる文化や知恵(生物文化多様性)を知ることで、ふるさとへの愛着も湧きます。身近な自然から得られる恵み(栗ご飯や魚料理、どんぐりゴマやリースづくり等)を体感、体験できる機会が大切です。

市 市民 事業者

市内の全小学校区に水田ビオトープを設置する目標を早期に達成するため、引き続き、設置がない小学校区へ積極的に働きかけてください。

市 市民 事業者

【主な関係課】

コウノトリ共生課  
こども教育課  
こども育成課

文化振興課  
生涯学習課  
こども教育課  
こども育成課

コウノトリ共生課

## 目標像⑧市民みんなが、ごみの減量化を実践し、1人あたりの排出量が徐々に減っています

資源循環を考える際、繰り返し使用する「リユース」の観点も重要になります。イベント時にフリーマーケットやリユースマーケット(※)を開催するなど、「使わないから捨てる」のではなく、「必要な人に使ってもらう」循環が生まれることを期待します。

(※)リユースマーケット：不要なものを必要な方に譲るイベント

市 市民 事業者

適切にごみ処理や使い捨てプラスチックの削減は、資源の保護や温暖化防止にもつながります。買い物時のマイバッグ持参はもちろん、学校行事や地域の行事などでのペットボトル飲料の提供を廃止し、マイボトルの持参や使い捨て容器を使わないなど、官民あがての小さな行動の積み重ねが重要です。

市 市民 事業者

【主な関係課】

生活環境課

生活環境課  
こども教育課  
コミュニティ政策課

## 目標像⑨市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています

豊岡市の運輸部門(車による移動)のCO<sub>2</sub>排出量が多い現状にあります。電車やバスといった公共交通機関の利用、時差出勤や車の相乗りなど移動方法を考える啓発を強化してください。

市 市民 事業者

太陽光発電システムは設置して終わりではなく、日々のメンテナンスから撤去までを考慮した計画性が求められます。生物多様性や景観への配慮はもちろん、適切な管理計画のもと、導入されることを求めます。

市 市民 事業者

【主な関係課】

生活環境課  
都市整備課

生活環境課  
都市整備課

## 目標像⑩環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています

【主な関係課】

環境経済認定事業に認定されるメリットが求められます。認定事業の商品に対する関心を深め、後押しする機会の創出に期待します。

環境経済課

市

事業者

環境経済認定事業者同士の交流により、新たな商品の開発や相互啓発の推進につながると考えられます。連携事業の制度設計や交流の場を創出してください。

環境経済課

市

事業者

## (2) まとめ

第2次豊岡市環境基本計画の推進4年目にあたる今回の評価は、「この調子でがんばろう」が8項目(目標像①②③⑤⑥⑦⑨⑩)、「もっとがんばろう」が2項目(目標像④⑧)という結果でした。「よくがんばりました」に該当する目標像はありませんでしたが、その大きな理由は、新型コロナウイルス感染症の影響のため「参加者数、利用者数」などに関する評価は適さないと判断して評価対象から外したことが考えられます。そのため、昨年度の評価では「よくがんばりました」だった目標像②⑦が、今年度は「この調子でがんばろう」になりました。

今回、「もっとがんばろう」となった目標像④は4年連続、目標像⑧は2年続けての評価となりました。目標像④については、その改善に向けて川沿いや海岸の清掃活動が地域住民やボランティアによって地道に続けられています。そうした活動の継続に加えて、外来種対策や適度な浚渫等による遊びやすく親しみやすい水辺環境を整備することを提案しています。川や海が美しくなることにとどまらず、市民が水辺に親しみ、そこで楽しく遊んでいる姿が目標像④の達成イメージだからです。

目標像⑧については、審議のなかで委員から、“地域コミュニティの行事などの際にリユースマーケットを開催するようにした”という発言があり、それを提案に取り入れました。リユースマーケットとは、不要なものを必要な方に譲るイベントのことですが、「使わないから捨てる」のではなく、「必要な人に使ってもらおう」循環が生まれる場や機会を積極的に設けてもらいたいと考えています。

環境審議会としては、「もっとがんばろう」評価がなくなるような取組みを「豊岡市」「市民」「事業者」に切に期待します。

2021年12月

豊岡市環境審議会	会 長	山室 敦嗣
	副会長	雀部 真理
	委 員	内海 京子・木築 基弘・毛戸 勝
		島崎 邦雄・菅村 定昌・土川 忠浩
		戸田 勝之・中村 肇・西垣由佳子
		野世 英子・洞田美津子・山下 正明
山田 博文		



**【お願い】**

豊岡市環境報告書は、毎年公表するものです。

次年度以降より充実した報告書になるよう、皆様のご意見・ご感想や、ご提案・取組み事例の情報などをお寄せください。

表紙写真提供：渡辺 政

**豊岡市市民生活部生活環境課地球温暖化防止対策室**

住 所：〒668 - 8666 豊岡市中央町 2 番 4 号

電 話 番 号：2 1 - 9 1 3 6（直）

F A X 番 号：2 3 - 0 9 1 5

E - m a i l：ondankaboushi@city.toyooka.lg.jp

H P 検 索：